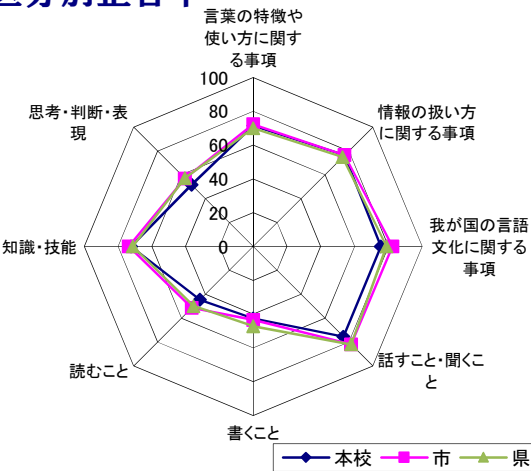


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.5	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	76.4	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	75.5	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	75.5	81.9	82.0
	書くこと	42.5	43.5	47.2
	読むこと	44.5	51.4	49.8
観点	知識・技能	72.3	73.6	71.3
	思考・判断・表現	51.7	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県より1.5%上回っている。 ○4年配当漢字を書く問題では、一部で正答率が県より10%以上上回っているものがある。 ●4年配当漢字を読む問題では、正答率が県より下回っているものが多かった。また、連体修飾語を答える問題や様子を表す語を選ぶ問題も正答率が県より下回った。	・既習漢字や文法などの基礎的な知識をより定着させるため、朝の学習等での漢字ドリルを使った学習やプリント学習を、意図的に設けていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県より1.5%上回っている。 ○漢字辞典の使い方にに関する問題では、正答率が県より1.5%上回っている。 ●正答率は県の平均より高いが、無回答率が2.8%となっている。	・漢字ドリルと漢字辞典を併せて使用し、新出漢字を学習する時間を設ける。50音順、画数順など漢字辞典の基本的な使い方を、繰り返し実践していくことで身に付けていく。またタブレットといった電子機器での効率的な調べ方も、指導していく。 ・情報を分析、比較、整理するための時間をとり、指導をする。見つけた情報を読むだけでなく、要約したり自分の考えを表現したりするために使えるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県より3.4%下回っている。 ●ことわざの意味を正確に理解し、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題では、無回答率が1.9%となっている。	・国語以外の教科や日常会話の中で使用例を示し、意味を確認していくことで子供たちのことわざや四字熟語、慣用句の語彙を増やしていく。また、自主学習でことわざや文章中の言葉の意味を調べる学習に取り組めるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県より6.5%下回っている。 ○話し手の工夫の共通点で適したものを選ぶ問題や、話した内容を選ぶ問題では、無回答率が0%となっている。また、話した内容を選ぶ問題の正答率は、県が88.7%、学校が84.9%とほぼ同等である。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す問題では、県より7.9%下回っており、無回答率も19.8%と高い。	・他者の意見や調査結果の内容を読むときは、共通点や相違点に着目して読み比べるように指導する。 ・発表するときや文に書くときの定型文、流れを繰り返し指導し覚えさせることで、普段の会話のなかでも、構成を意識して話すことができるようにする。
書くこと	平均正答率は県より4.7%下回っている。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができるかどうかをみる問題では、県が52.6%、学校が50.9%とほぼ同等である。 ●段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書くことができるかどうかをみる問題では、正答率が県より8.2%下回っている。	・「書く」授業の他にも、振り返りや感想を書かせるときなどには、必要な単語、大体の定型文を示したうえで文章を「書く」ことを意識的に増やしていく。 ・段落の役割を理解させるために、文章構成について復習していくようにする。また、文をつなげるための接続詞や時系列にそった文章構成など、ポイントを示して書くことができるように支援していく。
読むこと	平均正答率は県より5.3%下回っている。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有することができるかどうかをみる問題では、県より1.0%上回っている。 ●叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える問題では、県より9.2%下回っている。	・長文に慣れるために、本を読む機会を増やしていく。 ・授業では物語文など「読む」活動の際には、叙述から登場人物の行動や気持ちを想像して読んだり、言葉で表現したりできるような授業展開を設定していく。